

2026年3月作成

2025年度 40010高校生インタビューワークショップ -実施報告

高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室

構成

1.実施概要	p.2
2.実施体制	p.6
3.活動報告	p.8
3-1.Day1 事前学習（インタビュー&ライティング講座）	p.9
3-2.Day2 インタビュー実施・まとめ	p.14
4.成果物	p.23
4-1.成果物①	p.24
4-2.成果物②	p.28
4-3.成果物③	p.30
4-4.成果物④	p.32
5.高校生の声、感想	p.38
6.成果と課題	p.43

1.実施概要

ワークショップ概要

- **名称**：40010高校生インタビューワークショップ
- **期間**：2026年3月11日（水）～ 2026年3月18日（水）
- **場所**：四万十町農村環境改善センター
- **主催**：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- **企画運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)
- **実施内容**：高校生が地域で働く大人の生き方や働き方に触れながら、自身の進路や価値観について考えるきっかけを得るとともに、インタビューの基礎的な技法や、聞いた内容を整理して伝える方法を学ぶことを目的として実施。

講座回	開催日	テーマ
第1回	3/11	事前学習（インタビュー&ライティング講座）
第2回	3/18	インタビュー実施 / まとめ

ワークショップの目的

- 高校生が地域で働く大人の生き方や働き方に触れながら、自身の進路や価値観について考えるきっかけを得るとともに、インタビューの基礎的な技法や、聞いた内容を整理して伝える方法を学ぶ

①地域の仕事や生き方への理解促進

地域で活動する大人へのインタビューを通して、四万十町での仕事・暮らし・生き方に触れ、高校生が地域で働くことや生きることを具体的に知る機会をつくる。

②自分の進路やキャリアを考えるきっかけづくり

大人の経験や価値観に触れながら、自分はこれからどんな進路を選びたいのか、どんな働き方や生き方をしたいのかを主体的に考えるきっかけを生み出す。

③インタビューの基礎的な技法と伝える力の習得

質問の組み立て方、相手の話の引き出し方、聞いた内容を整理してまとめる方法など、インタビューの基礎的な技法を学び、地域の人のおもいや魅力を自分の言葉で伝える力を育む。

A0010

地域で働く大人のリアルを聞き、考え、まとめる

高校生インタビューワークショップ

四万十町で暮らし、働く人たちの話を聞き、町の中にあるいろいろな仕事や生き方に触れるワークショップです。

参加費
無料!

インタビューの基礎から学び、話を聞き、考え、言葉にしてみる。これからのことを考えるヒントを見つける2日間です。



Day1 3/11(水) 15:00-19:00

Day2 3/18(水) 10:00-17:00

会場 四万十町農村環境改善センター 大会議室

対象 窪川高校生・四万十高校生
四万十町出身の高校生

定員 10名程度

四万十高校生の
送迎あり!

こんな人におすすめ

- ✓ 四万十町に住む人がどんな仕事や暮らしをしているのか興味がある人
- ✓ 人の話を聞いたり、それを文章にまとめ、発信することに興味がある人
- ✓ 進路に対していろいろな情報や選択肢を集めたいと思っている人
- ✓ 学校や学年をこえて、新しい人と関わってみたい人

詳細は裏面へ →

プログラム内容

全て大学生スタッフが伴走します!

Day1

事前学習

(インタビュー&ライティング講座)



地域におけるインタビューの基本や話の聞き方、内容をまとめるための基礎を、リアルなお話も交えて学びます。そして、Day2のインタビュー実施に向けた準備を行います。

Day2

インタビュー実施 /まとめ



自分が「話を聞いてみたい」と思った人のもとへ行き、インタビューをします。聞いた内容をチームで振り返りながら文章にまとめ、最後に感じたことや気づきを共有します。

講師 (Day1のみ)



竹村 俊斗 氏

四万十町役場
企画課 広報情報係
兼 企画調整係 主任

四万十町役場に入庁後、健康福祉課を経て企画課に異動。広報紙のリニューアルや公式SNS (Instagram, YouTube, LINE) の開設、シティブロモーションの推進等を行う。2022年度~2024年度に東京にある(一財)地域活性化センターへ出向。同センターの情報誌「地域づくり」のリニューアルや新規セミナーの企画・運営を経験。4月からは再び四万十町役場企画課で広報業務やDX推進などに携わる。

注意事項

- インタビュー相手は申込時に希望を伺いますが、ご希望に添えない場合があります。
- 当日の様子を、SNS発信や今後の活動の参考として写真・動画を撮影・使用する場合があります。



主催

四万十町役場 人材育成推進センター
にぎわい創出課

企画・運営

高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室

お問い合わせ



申込締切
3月4日(水)

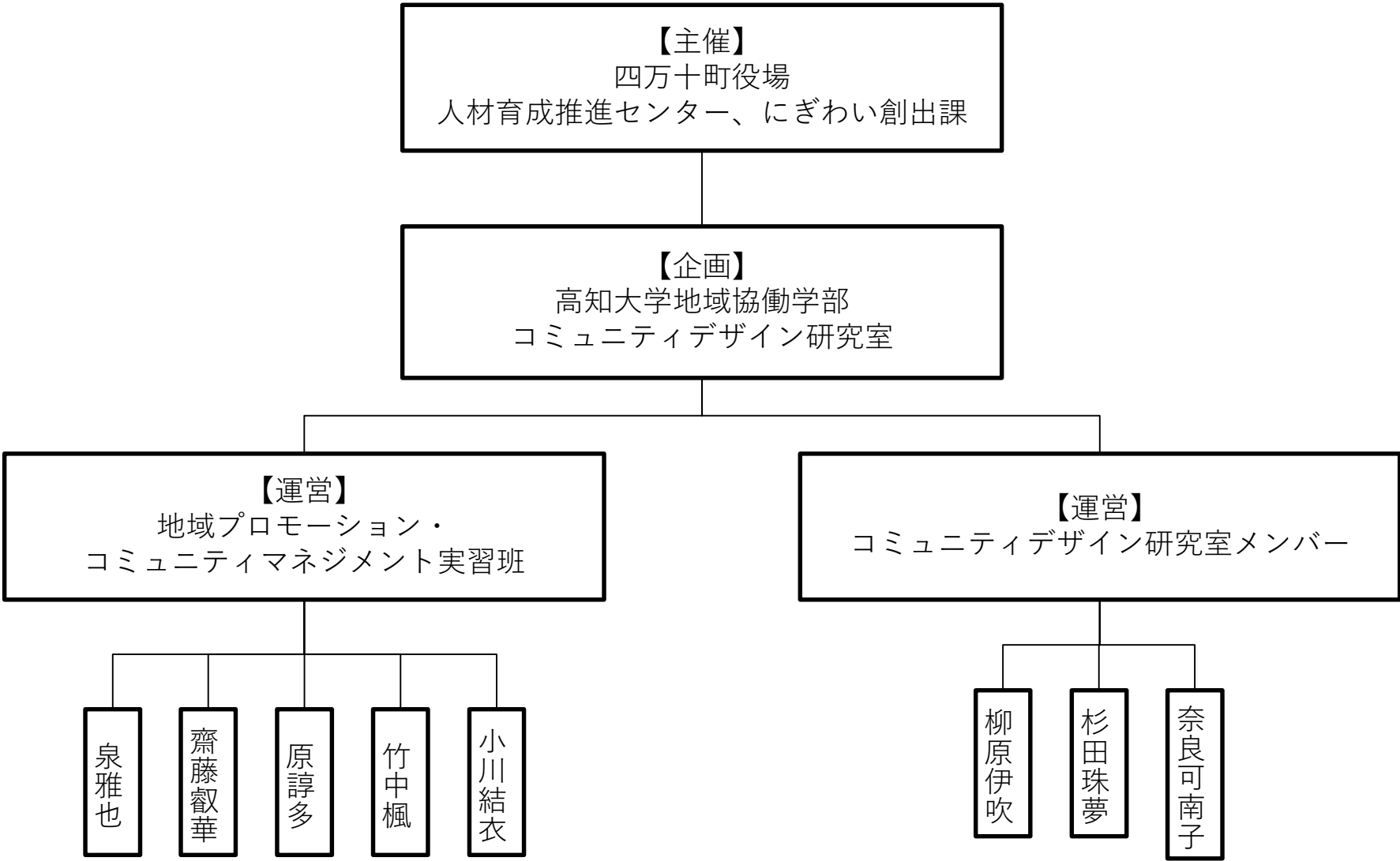


申し込みはこちら



2.実施体制

実施体制



3.活動報告

3-1. Day1 事前学習（インタビュー&ライティング講座）

実施要項

- 名称：40010高校生インタビューワークショップ
- 日時：2026年3月11日（水） 15:00-19:10
- 場所：四万十町農村環境改善センター 大会議室
- 主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- 運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
15:00-16:20	オリエンテーション / アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none">• 本ワークショップの目的・ゴールの説明• 高校生と大学生のアイスブレイク
16:20-18:20	インタビュー& ライティング講座	<ul style="list-style-type: none">• 講師：竹村 俊斗 氏(四万十町役場 企画課 広報情報係兼企画調整係 主任)• インタビュー・ライティング・グラフィックデザインについて学ぶ
18:20-19:10	インタビュー実施に 向けた準備	<ul style="list-style-type: none">• 質問項目や当日のインタビュー時の時間配分などを整理し、事前準備を行った。

オリエンテーション / アイスブレイク

Day1の冒頭では、オリエンテーションとアイスブレイクが行われた。オリエンテーションでは、ワークショップ全体の目的として、「四万十町で働き・暮らす大人の想いや経験を受け取り、自分の将来や興味を考えるきっかけにすること」が共有された。また、本ワークショップでは、地域の大人にインタビューを行うだけでなく、聞いた内容を整理し、最後に他者へ伝わる形にまとめることが説明され、「聞く力」「言葉にする力」「伝える力」を身につけることがねらいとして示された。アイスブレイクでは、チェックインや「嘘つき自己紹介」などを通して高校生と大学生が打ち解ける時間が設けられた。名前や学校・学年、現在の気持ち、インタビューに向けた意気込みを共有することで、場の緊張がやわらぎ、その後の活動に前向きに参加する雰囲気づくりにつながっていた。



オリエンテーションの様子



説明を聞く高校生と大学生



チェックインを行う高校生



大学生と高校生でペアワーク



全体の様子



質問に答える高校生

インタビュー&ライティング講座

インタビュー&ライティング講座では、四万十町役場 企画課 広報情報係兼企画調整係 主任の竹村俊斗氏を講師に迎え、「質問一つで、人生は深くなる。」をテーマに講義が行われた。講師は自身のこれまでの経験や広報の実践事例も交えながら、インタビューは単に情報を集めるための作業ではなく、相手の思いや感情、人生の背景に触れるための営みであることをわかりやすく伝えていた。講義では、正解の質問を探そうとしすぎず、まずは相手に興味を持って聞くことの大切さが強調され、インタビューの基礎的な技法が具体例とともに紹介された。あわせて、聞いた内容を「聞く→考える→伝える」という流れで記事にしていく視点も示された。講座の中では、2人組で3分間のインタビューを行う時間も設けられ、高校生同士が実際に聞く・話す・深めることを体験できる構成となっていた。楽しみながらも相手の話を丁寧に受け取る姿勢を学ぶ時間となっていた。



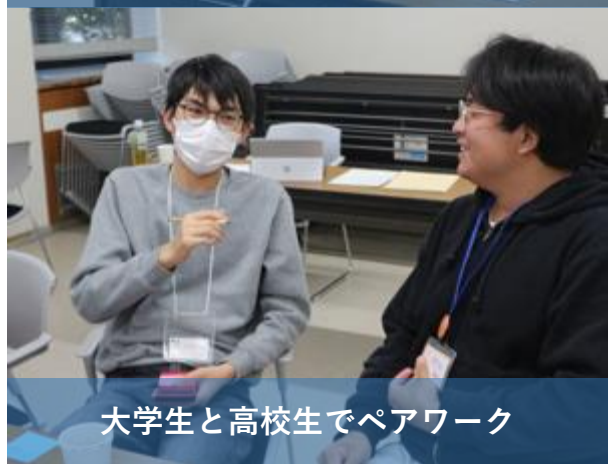
講師の竹村氏



講座を聞く様子



ペアワークを行う様子



大学生と高校生でペアワーク



全体の様子



役割を交代して再挑戦する様子

インタビュー実施に向けた準備

Day1の最後には、次回のインタビュー実施に向けた準備が行われた。高校生にはインタビューシートが配布され、60分間のインタビューの中で「何を聞きたいのか」「どの質問を優先するのか」を整理しながら、当日の進行を具体的に考える時間となった。高校生一人ひとりに大学生が付き添い、聞きたいことの整理だけでなく、質問をより深めるための問いかけや、限られた時間の中でどのように配分して進めるかについても相談しながら内容を組み立てていった。作業の中では、講座で学んだ「相手が話しやすい聞き方」や「掘り下げるためのコツ」なども振り返りながらシートを作成する様子が見られ、高校生が次回の実践に向けて具体的なイメージを持ちながら準備を進めていたことがうかがえた。



大学生と作業を進める様子



付箋を使い整理する様子



メモを取る高校生



シートにまとめる高校生



相談に乗る大学生



取材先の情報を事前に集める様子

3-2. Day2 インタビュー実施・まとめ

実施要項

- **名称**：40010高校生インタビューワークショップ
- **日時**：2026年3月18日（水） 10:00-17:20
- **場所**：四万十町農村環境改善センター 大会議室
- **主催**：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- **運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
10:00-11:00	チェックイン	<ul style="list-style-type: none">• 本日の気持ちとインタビューに向けた意気込みの共有• インタビュー実施に向けた説明・諸注意
11:00-14:00	インタビュー実施	<ul style="list-style-type: none">• 各取材先において、それぞれインタビューを実施• 昼食後、インタビュー内容の整理
14:00-16:10	ライティング	<ul style="list-style-type: none">• インタビューした内容を記事にまとめる
16:10-17:20	最終発表	<ul style="list-style-type: none">• まとめた内容を全体で発表

チェックイン

Day2の冒頭では、チェックインが行われ、参加者それぞれが現在の気持ちや、これから始まるインタビューに向けた意気込みと前回の学びを共有した。諸事情により一部の高校生はこの時間のみオンラインで参加したが、画面越しにそれぞれの状況や思いを伝えることで、その場に集まっている参加者と同様に活動への気持ちを整える時間となっていた。続いて、ファシリテーターの杉田より、当日のインタビュー実施に向けた連絡事項や諸注意が共有された。移動や集合に関する確認に加え、インタビュー先への礼儀や記録時の配慮など、実施にあたって意識しておくべき点が改めて丁寧に確認された。その後、各チームごとに当日の流れや質問内容について最終確認を行い、準備を整えたうえで、それぞれのインタビュー場所へ向かうため会場を出発した。



インタビュー実施①

高校生の1人は、土地家屋調査士であり、四万十町商工会青年部長としても活動する芝亮省氏にインタビューを行った。これは、「四万十町で家業を継ぎ、地域の中でイベント運営などにも関わっている方に話を聞いてみたい」という高校生本人の希望をもとに実現したものである。インタビューでは、「なぜ家業を継ごうと思ったのか」「なぜ地域のイベントに関わっているのか」といった問いを中心に、芝氏のこれまでの人生の歩みや、活動に込めている想いについて尋ねていった。話を聞く中で、高校生は芝氏の何事にもストイックに向き合う姿勢に圧倒されている様子も見られ、その生き方や考え方に強く引き込まれていた。また、芝氏から高校生へ問いかけが返される場面もあり、一方向に話を聞くだけでなく、互いに言葉を交わしながら理解を深めていく、活気のあるやり取りとなっていた。



インタビューの様子



問いを投げかける高校生



メモをとりながら聞く高校生



経験を語る芝氏



終了後の雑談の様子



記念撮影

インタビュー実施②

高校生の1人は、元保育士で、現在は地元で高校地域学校協働活動推進員を務める藤澤久美子氏にインタビューを行った。これは、保育や子どもに関わる仕事に関心を持つ高校生の希望をもとに実施されたものである。インタビューは、藤澤氏が副代表を務めるNPOが運営する古民家カフェ半平にて行われ、落ち着いた雰囲気の中で話を聞く機会となった。高校生からは、「保育の現場における昔と今の違い」や、「印象に残っている園児のこと」、「子どもと接する中で感じてきたこと」などについて質問が投げかけられ、藤澤氏がこれまで積み重ねてきた経験や、現在も地域の高校生をはじめとする子どもたちに関わる中で抱えている想いに触れていた。また、藤澤氏は質問に応じるだけでなく、関連する本や資料も持参しながら話を広げており、一つの問いからさまざまな話題へと展開する、学びの多いインタビューとなっていた。



インタビュー開始前の挨拶



質問をする高校生



インタビューの様子



問いに答える藤澤氏



古民家カフェ半平



記念撮影

インタビュー実施③

高校生の1人は、元四万十町地域おこし協力隊として活動し、デザインに関わる仕事や活動を行っていた國廣亜紀氏にインタビューを行った。デザインに関わることをしながら町で暮らす人に話を聞いてみたいという高校生の思いから実現したものである。インタビューは國廣氏の自宅で実施され、子育てを含めた現在の生活の様子にも触れられる機会となった。高校生からはデザインに限らず、これまでの歩みや想い、価値観に関する問いが投げかけられた。話を聞く中で、國廣氏がかつて抱えていた迷いや悩みに、高校生自身の今の思いと重なる部分があることに気づき、強く共感している様子が見られた。また、國廣氏が集めていたデザイン資料や卒業制作も見せてもらいながら話を聞くことで、表現の広がりや学びの積み重ねをより具体的に感じる時間となった。高知を離れて学んだ経験や、外に出たからこそ得られた出会いが、進路選択を考えるうえで高校生自身の視野を広げる機会にもなっていた。



参考資料を見せてもらう高校生



問いに答える國廣氏



資料をもとに説明



資料を見ながら対話する様子



インタビューの様子



記念撮影

インタビュー実施④

高校生の1人は、大正地域に位置するEkimaehouse SAMARUを実際に訪れ、オーナーであり、大正地域のさまざまな活動に携わる小野雄介氏にインタビューを行った。これは、子どもに関する活動や地域に入っていくことに興味を持つ高校生が、「地域で学ぶこと」について理解を深めたいという思いから実施された。インタビューでは、「地域の方と関わる上での壁や気をつけていること」や「学生時代をどのように過ごしてきたか」など、多岐にわたる質問が投げかけられた。小野氏からは、思い立ったらまず行動してみる大切さや、事業や活動に取り組む際には「自分がやりたいか」「自分にとって面白いか」といったモチベーションを軸にしていることが語られた。地域の中で実践を重ねてきた小野氏の考え方に触れることで、高校生にとっては大学生になる前の段階で地域との関わり方や地域での学び方、学生時代の過ごし方について具体的な示唆を得る機会となっていた。



インタビューの様子



問いに答える小野氏



メモをとりながら聞く高校生



問いを投げかける高校生



インタビューを行う高校生



記念撮影

ライティング

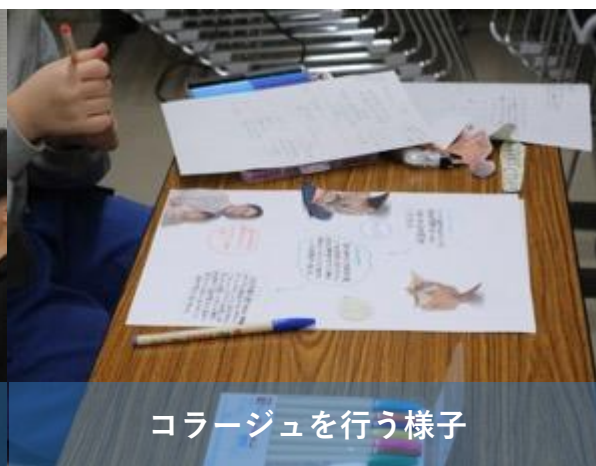
インタビューを終えた後は、聞き取った内容をもとにライティングとインタビューのまとめ作業を行った。まとめ方としては、紙媒体で手書きやコラージュを用いて表現する方法と、編集ソフトを使ってデジタルで制作する方法の二つが提示され、参加者はそれぞれ自分に合った方法を選択して編集に取り組んだ。作業の冒頭には、前回講座で扱ったライティングやグラフィックデザインの内容を振り返る時間も設けられ、学んだことを思い出しながら、それらを生かして制作を進める流れとなっていた。実際の編集作業では、インタビュー内容を整理しながら、相手の想いや魅力が伝わる記事にまとめようとする中で、どの情報を残し、どこを削るかといった取舍選択や、読みやすい流れの構成に苦戦する様子も見られた。そうした中で、大学生がそばでサポートし、これまでの経験をもとに内容の整理や見せ方について助言を行いながら、それぞれが自分なりの形でまとめ作業を進めていた。



PCを使いまとめる高校生



分担しながら取り組む様子



コラージュを行う様子



相談に乗る大学生



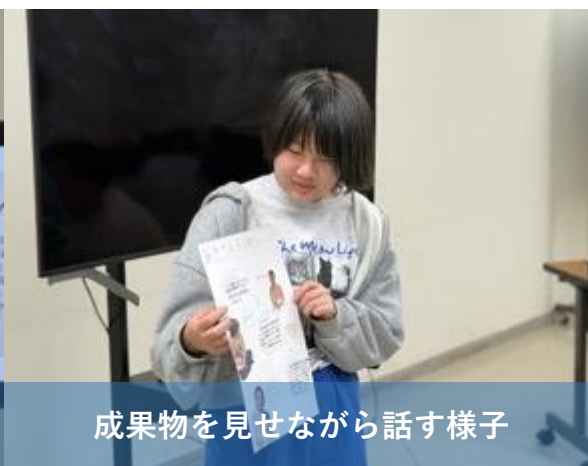
制作を行う様子



文章の作成を行う高校生

最終発表

最後には、インタビューをもとにまとめた内容を一人ひとりが発表し、それぞれの学びや気づきを共有する報告の時間が設けられた。発表では、インタビューの中で印象に残った言葉や場面に加え、話を聞いたことを通して得た学び、自分自身の進路や考え方に重ねて感じた気づきなどが語られた。参加者同士で互いの発表を聞き合うことで、同じワークショップに取り組みながらも、それぞれ異なる視点や受け止め方があることを知る機会にもなっていた。発表後には質疑応答の時間も設けられ、さらに気になった点を尋ねたり、発表を受けて考えたことを伝え合ったりするなど、互いに学びを深める時間となった。最後には、人材育成推進センター長の富田氏より講評が行われるとともに、チェックアウトとしてワークショップ全体を通じて得た学びや気づきを改めて共有し、2日間の活動を締めくくった。



4. 成果物

4-1. 成果物①

成果物①



成果物①



成果物①



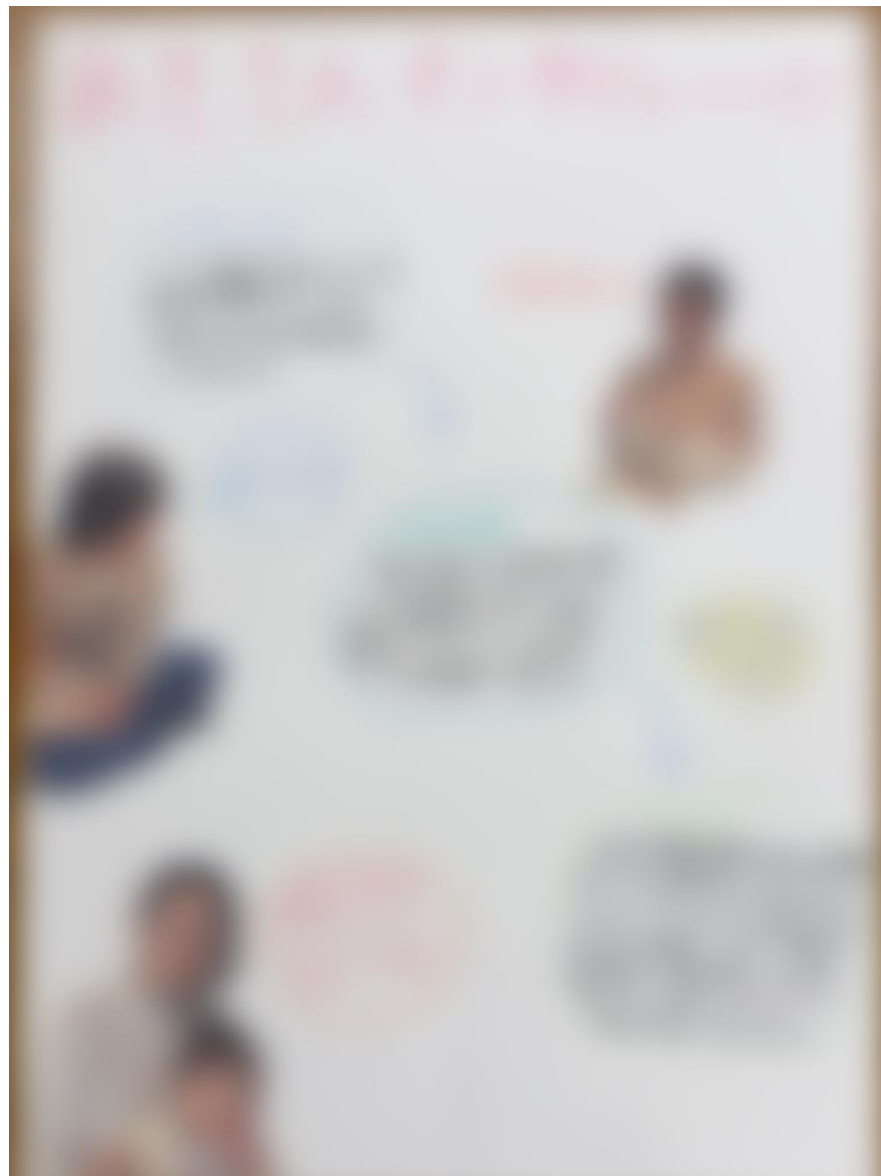
4-2. 成果物②

成果物②



4-3. 成果物③

成果物③



4-4. 成果物④

成果物④



関係者による協議の様子

- 1. 協議内容
- 2. 協議結果
- 3. 協議日時
- 4. 協議場所
- 5. 協議参加者


協議内容

協議結果

協議日時

協議場所

協議参加者



協議内容

協議結果



成果物④



【課題】
「〇〇〇〇」について、
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に



【課題】
「〇〇〇〇」について、
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に
「〇〇〇〇」を「〇〇〇〇」に

成果物④

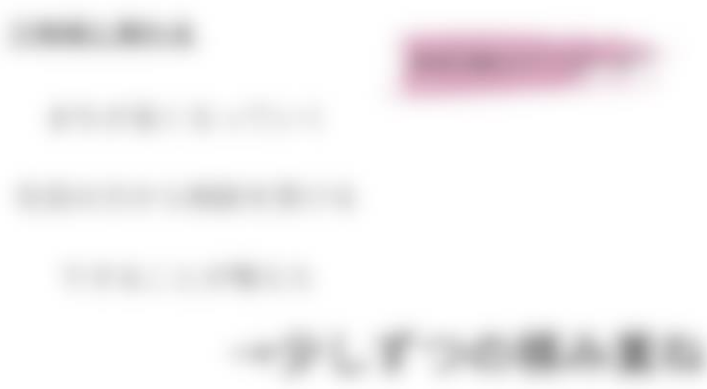
【活動内容】
1. 地域住民の意見聴取
2. 地域住民の意見聴取
3. 地域住民の意見聴取
4. 地域住民の意見聴取

【活動内容】
1. 地域住民の意見聴取
2. 地域住民の意見聴取
3. 地域住民の意見聴取
4. 地域住民の意見聴取

【活動内容】
1. 地域住民の意見聴取
2. 地域住民の意見聴取
3. 地域住民の意見聴取
4. 地域住民の意見聴取



成果物④



成果物④



三浦 麻衣子 さん 様

5. 高校生の声、感想

高校生①

■ 学校では学べない内容を学ぶことができた

→インタビューの聞き方や記事の見やすい書き方など、学校の授業では聞くことができないような、とてもためになることが聞けて学びになった。スライドの作り方などが巻きになってしまっていたので、もっと聞きたかった。

■ 実践を通して課題に気づくことができた

→Day1で学んだ「興味津々に聞く」を意識してインタビューに取り組んだが、それに集中しすぎてメモがあまり書けず、両立が課題だと感じた。また、記事を書ききることやフォントを考えることができなかったため限られた時間で書く力を身につけたいと思った。

■ 今後に活かせる具体的な学びを得た

→インタビューの仕方や見やすいスライド・記事の作り方など、今後の学校生活や仕事に役立つことを学ぶことができた。特に知っている人を記事にのせることで地元の人が手に取りやすいという点が印象に残った。

■ 日常や今後の活動に活かしていきたい

→「さしすせそ」など人と話すうえで大切なことを学ぶことができた。今後はスライド作成の際にも空白の使い方などを意識していきたい。また、今回見つけた課題を改善するためにも、今後もこのようなワークショップがあれば参加していきたいと思った。

高校生②

■ スライドやインタビューの工夫を学ぶことができた

→自分が普段気にしてなかったスライドの工夫の仕方やインタビューの仕方をきけてよかった。竹村さんの話し方がとてもわかりやすく、参考・勉強になる時間であった。

■ 実践を通して、整理して伝える難しさを感じた

→インタビューはうまくいったが、発表スライドを作るときに考えが整理される時間が短かったり、記事とは言えない内容になってしまっていたことが残念だった。インタビューがどれだけ難しいのか、そしてそのインタビュー内容を他人に伝えるために、どれぐらいの時間が必要なのか、改めて身を持って知ることができた二日間だった。

■ 地域の方の話を今後に活かしたいと感じた

→地域のことについてインタビューにてたくさんの情報を聞けたため、これからは活かしていきたい。また、他のお話も自身の通う大学に直結してくる内容であったため、大学の活動時にぜひ活用したい。

■ 今後もインタビューや発表に挑戦していきたい

→竹村さんから学んだインタビュー方法は、インタビューだけでなく、普段の会話や文章作り、スライド作成などにも生かされると思うため積極的に活用していきたい。1度のインタビューだけでは、なかなかすべての力を出し切ることが難しかったため、また他の人にもインタビューをすることを挑戦したいと思った。そして記事以外にもスライドを見ながらの発表などの力も向上させていきたいため、そのような活動を行っていききたい。

高校生③

■ インタビューのコツや新しい考え方を学ぶことができた

→インタビューのコツを学べる機会はあまりないので勉強になった。インタビューの時の沈黙はダメなことと思っていたが、「沈黙を恐れなくていい」と教えてもらい、恐れなくていいんだと思った。色の配置などの工夫についてももっと聞きたかった。

■ 実践では難しさを感じつつも楽しく取り組めた

→インタビューを実際にやってみて、学んだことを上手く活用しようとしたが緊張して少ししか活用できなかった。しかし、雰囲気は楽しくできたのと、聞きたい質問は全部聞けてよかった。ライティングでは、見やすくまとめたり簡潔に文章を書くことが難しかったが、楽しかった。

■ 相手に合わせて聞くことや事前準備の大切さに気づいた

→相手のペースにあわせて話を聞くことや、事前の情報収集の大切さを学んだ。また、インタビューした人の高校生時代の思いが今の自分と重なる点が多く、進路を考える良いヒントをもらった。

■ 今後は進路やデザインにも活かしていきたい

→インタビューで聞いた言葉を大切に、自分のやりたいことを考え、進路に繋げていきたい。インタビューや記事作成の機会があれば活用したい。また、ポスターや雑誌のページを作る際の色の使い方などにも興味があり、デザインにも挑戦してみたいと思った。

高校生④

■ 学生のうちにはなかなかできない貴重な経験になった

→学生のうちになかなか聞けるお話じゃないからいい経験になった。インタビューは自分の聞きたいことを聞くだけでなく、相手が話したいことを聞いて、相手が喜ぶ記事を書くことを意識しながら行うようにしようと思った。

■ 聞き手として主体的に関わることの大切さを感じた

→いろんなサポートの中で、自分が聞き手の主役になって聞ける貴重な体験で学びが多かった。一方で、大学生や相手の方に任せきりなインタビューになってしまったところもあり、今回していただいたことを次回からは自分でできるようになりたいと思った。

■ 相手に正しく伝わるように聞くことの難しさに気づいた

→人によって大事だと感じるポイントや意識していることが違うことを感じた。また、インタビューでは相手の言葉を自分の中で解釈してしまい、結果として誤った伝わり方をしてしまうと感じたため、気をつけていきたいと思った。相手方に事前に聞く内容を教えておくこともかなり大切だと感じた。

■ 今後はまとめやデザインにも挑戦したい

→インタビューはしっかり行えたが、まとめる作業は手伝ってもらった部分が多かったため、今度はデザインや文章を自分1人でやってみて、より良いものを作れるようになりたいと思った。また、インタビュー相手の言葉だけでなく、仕事やプライベートも見学できるとより深いものができると思うため、密着のような形にも挑戦してみたいと感じた。

6. 成果と課題

成果

■ 興味関心に応じた出会いを通して、新たな視点を得る機会となった

→高校生の興味関心に合わせて町内のインタビュー相手を紹介することができ、それぞれがこれからの進路に対する新たな視点や価値観を得る機会となった。

■ インタビューやライティングの技法を具体的に学ぶ機会となった

→事前に講座を設けたことで、インタビューの聞き方やライティングの工夫を具体的に捉えることができ、実際のインタビューやまとめ作業に活かされる、意義のある実践となった。

■ 大学生の丁寧な伴走が、学びと交流の両方につながった

→大学生が丁寧に伴走することで、ワーク内容の理解を支えるだけでなく、高校生との交流や関係づくりにもつながった。

課題

■ どこまで枠組みや支援を用意するかバランスに検討の余地がある

→円滑に進めるための準備や支援は必要である一方で、こちらが用意したものを埋めるだけになってしまっは学びが浅くなるため、どの程度手を入れるかのバランスに課題が残った。

■ 一度に扱う内容が多く、高校生にとって負担の大きいものになった

→今回はインタビューの実施に加え、内容の整理やライティング、発表資料の作成までを短期間で行う構成であった。それぞれの工程に十分に取り組むには時間的な制約があり、活動全体の構成について見直しの余地がある。

■ 学びの焦点をより絞った設計の必要性が見えた

→インタビューとライティングの両方を扱うことで幅広い学びにつながった一方で、内容が多岐にわたったことで、一つひとつの学びを深める点では十分とはいえない部分もあった。今後は、特定の分野に焦点を当てるなど、目的に応じた設計の工夫が求められる。

お問い合わせ

■ 四万十町役場

人材育成推進センター

担当：吉村・中井

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880-22-3163 FAX：0880-22-3345

にぎわい創出課

担当：有田・宮本

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

E-mail：syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880-22-3281 FAX：0880-22-5040

■ 高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

Web：https://www.communitydesign-kochi.jp/

E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本企画に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本企画の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます